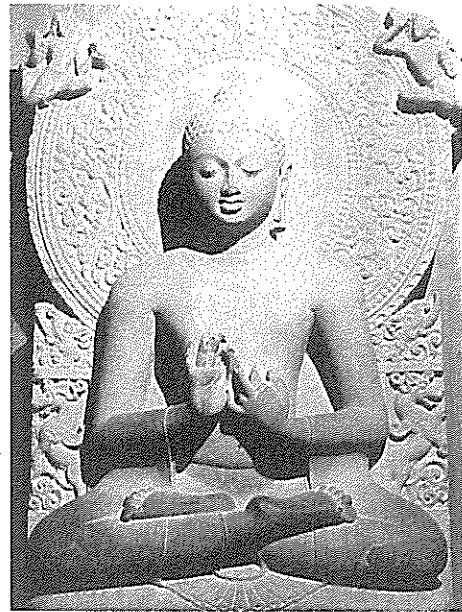


お釈迦さん・阿彌陀さん・そして

わたくし **私** が **佛** と **成** る (NO4)



ブツダ（お釈迦さま）の説法像  
（インド・サルナート博物館蔵）

8月号では、佛さまを向うにおいて（対象にして）お参りする姿は、佛の願われていることではなく、逆に佛の方から、はたらきかけて来てくださっているのだと、言葉を変えると（呼びかけて）下さっているのだと書きました。繰り返すようですが、対象としますと、私が主で、阿彌陀様がお客さんになります。それが逆さまなのです。

そのことをもう一度わかりやすく書いてみます。

世間一般では、阿彌陀様といいますとお寺のご本尊であったり、お仏壇（お内佛）のご本尊を思い浮かべます。そのお姿は、阿彌陀様のはたらき（本願という）を形に現わしたものです。

**Q（問）** ご本尊と云っても人間の姿でないですか？人間の姿が、木に彫刻されているか、あるいは絵で示されているだけでないですか。どうもピンときません。

**a（答え）** あなたのおっしゃる通り人間のかたち（お釈迦さまの姿）で刻んであるし、画かれています。そこに本尊の最も具体的な、最も厳密なあり方をしめされているのではありませんか。

本来、本尊は姿、かたちはありません。姿、形を越えたはたらきです。（親鸞聖人は、法身は色もなし、形もまじなさず、しかれば心もおよばず、ことばもたえたり。この一如より形を現わして云々）すがた形を越えたはたらきです。しかし、すがた、かたちを越えたはたらきは、必ず、すがた、かたちとなって自己表現します。

そのすがた形とは、ほかならぬ人間（お釈迦さま）が、私のうえにはたらき出て、私を佛道に立たしめてくださるはたらきです。だから形で表すとなれば、人間の姿（お釈迦さま）で表すのが、最も正確な表現のしかたです。

ほんがんにりき  
**本願力にあいぬれば**

くどく ほうかい  
**むなしくすぐるひとぞなき**

くどく ほうかい  
**功德の宝海みちみちて**

ほんのう じよくし  
**煩惱の濁水へだてなし**（高僧和讃）

（意訳）

阿彌陀如来のはたらきを頂くと、無駄に日暮を過ごすことは無い。日々の生活が充実し、いろいろである障害も、堂々と共に歩むことが出来る。

（語意）

本願力…阿彌陀如来のはたらきに  
目覚めると

むなしく…むだに通り返る。いたずらに流転することはない。

功德の宝海…阿彌陀如来の名号。南無阿彌陀佛に無量の功德を具えているのを、宝の海に譬える

本願のはたらき（阿彌陀様のはたらき）としての本尊は、どこまでも人間を、（この私を）必ず救うはたらき その意味で人間の姿と成って、人間の歩むはたらき（道をもとめさず）はたらきです。救うことが出来なかつたら、佛には成らないとの誓い、約束です。

一般的な神・佛は、完璧な神・佛です。出来上がった神・佛です。ところが阿彌陀如来だけは、この世に一人でも苦しんでいる者がいれば、私は佛ではないと誓っている。いわば「未完成の佛」です。苦しんでいる人間が一人でもいる限り、佛に成れないのです。

**コーラス会員 募集**

練習日 毎月一回（第三火曜）

午後一時半から二時半

会場 正行寺本堂に於いて

指導 広陵町 藤本博子先生

内容 発声練習に始まって、童謡や、文部省唱歌 一般歌謡 佛教讃歌 その他

☞ 楽譜の読める方も、そうでない方もお気軽に参加ください。

楽譜や記号を、分かりやすく指導下さいます。

☞ お一人でも多く、参加下さい。

☞ 参加費ご協力ください。（月 五百円）